

失業

キーワード：失業率、UV 曲線

日本の失業率：総務省統計局「労働力調査」

①仕事をしていない、②すぐに仕事が見つかる状態、③求職活動をしている

他の先進国の失業率 (p. 76 図 5-1) を参照

1960 年代まではどの国も失業率が低い→福祉国家の黄金期

失業のストック・フローモデル (p. 77 図 5-2)

失業者の滞留傾向が強くなった。(1990 年→2000 年)

UV 曲線 (p. 81 図 5-3)：欠員(求人)と失業者が併存する状態。

同一の曲線での動きは需要不足失業の変化

→労働需要が増加すると求人が増えて、失業者が減少する

UV 曲線のシフトは摩擦的失業と構造的失業の変化

摩擦的失業の方が構造的失業よりも解消が速い

UV 曲線からは摩擦的失業と構造的失業の判別は不可能

UV 曲線は右上にシフトする傾向。

需要不足失業について

ケインズ経済学における失業分析 (p. 83 図 5-4)

完全雇用)に雇用量が達していない限り、賃金は上昇しない。

フィリップス曲線

賃金上昇率と完全失業率の間には負の相関が存在。(p. 85 図 5-5)

失業者が増えると賃下げ圧力がかかる→産業予備軍効果とも呼ばれる。

効率賃金仮説

企業は均衡水準以上の賃金を進んで支払う傾向にある。

→解雇された時のダメージを大きくすると、労働者はまじめに働くようになる。